

○Web サイトにオプトアウトする書式

「リンパ腫・リンパ増殖性疾患における細胞診の診断精度向上に関する研究」

○研究の概要

リンパ腫・リンパ増殖性疾患は、血液のがんで、日本では年々、患者さんが増えています。ひとことでリンパ腫・リンパ増殖性疾患と言っても、多くの病型があり、その病型に応じて、治りやすいものや、治りにくいものがあります。また、治療が異なることもあります。そのため、病型の決定が非常に重要です。リンパ腫・リンパ増殖性疾患を診断する際に、その比較的早い段階の検査として、腫れているリンパ節を針で刺して、病変を少量採取してリンパ腫・リンパ増殖性疾患の可能性の有無を調べる細胞診という検査があります。この検査は、比較的行いやすい検査で、かつ、患者様への痛みや合併症が少ない、いい検査ですが、採取される検体量が少ないこともあり、診断の精度が十分とは言い難い検査になっています。本研究を通じて、リンパ腫・リンパ増殖性疾患の診断精度を向上させることで、将来的に同様の病変を有する患者さんの早期の診断や、早期の治療に大きく貢献できるものと考えられます。

○研究の目的と方法

目的としては、さきほど述べました通り、リンパ腫・リンパ増殖性疾患の評価を通じて、患者さんの早期の診断・治療に大きく貢献できる新しい情報を見つけ出すことです。

方法としては、当院で診断されたリンパ腫・リンパ増殖性疾患の患者に対して、診断に用いた標本や、その残りの検体（残余検体）を用いて、顕微鏡で腫瘍細胞の形をみたり、腫瘍細胞がもっているタンパク質を確認したり、腫瘍周囲の細胞の性質をみたりします。そのほか、必要に応じて、腫瘍細胞の遺伝子の異常も確認しますが、確認するのは腫瘍細胞の遺伝子のみで、みなさまのお子さんやお孫さんに受け継がれるような遺伝子情報については調べません。また、この研究では、以前に患者さんから診断のために採取した検体の残り（残余検体）を用いますので、患者さんの負担が増えることはありません。保存する検体には、保存のための番号を付与し、それらの番号と病型、性別、生年月日とが連結可能な形で管理・保管されますが、それらの情報は施設が可能な部屋で保管され、第三者が患者さんを特定できないような形で保管されます。この研究に参加された方々の年齢や性別、検査結果などは学会や論文で公表・使用されることがありますが、個人が特定されることはありません。

○本研究の参加について

該当する患者さんの電子カルテ上の情報を当方で収集させていただきます。そのほか、残余検体にて下記のことを調査させて頂くため患者さんへのご負担や不利益はありません。そのため、改めて同意書を頂いたりすることはございません。また、ご参加のご意思を改めて確認することはありません。個人情報はずべて匿名化いたしますので、プライバシーは守られます。万一、この調査に参加したくない患者様がいましたが、当方にご連絡頂けましたら、調査を中止し、集計から外させていただきます。ただし、学会報告、論文発表後は集計から外することが不可能になりますことをご了承ください。

○調査する内容

リンパ腫・リンパ増殖性疾患の方の臨床情報に加え、残余検体にて腫瘍細胞が発現しているタンパクや遺伝子変異、あるいは腫瘍周囲の細胞が発現しているタンパクなどを解析します。

○実施期間

研究対象期間：昭和 54年 1月 1日～令和 7年 7月 31日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後～令和 12年 3月 31日まで

○研究成果の発表

学会発表および論文発表を予定しています。

○研究代表者

国立病院機構熊本医療センター病理診断科 武藤 礼治

○当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター病理診断科 武藤 礼治

○問い合わせ先

TEL 096-353-6501 (病院代表)